

東京文化財研究所の 広域ネットワークを利用した取り組み

平成28年10月14日

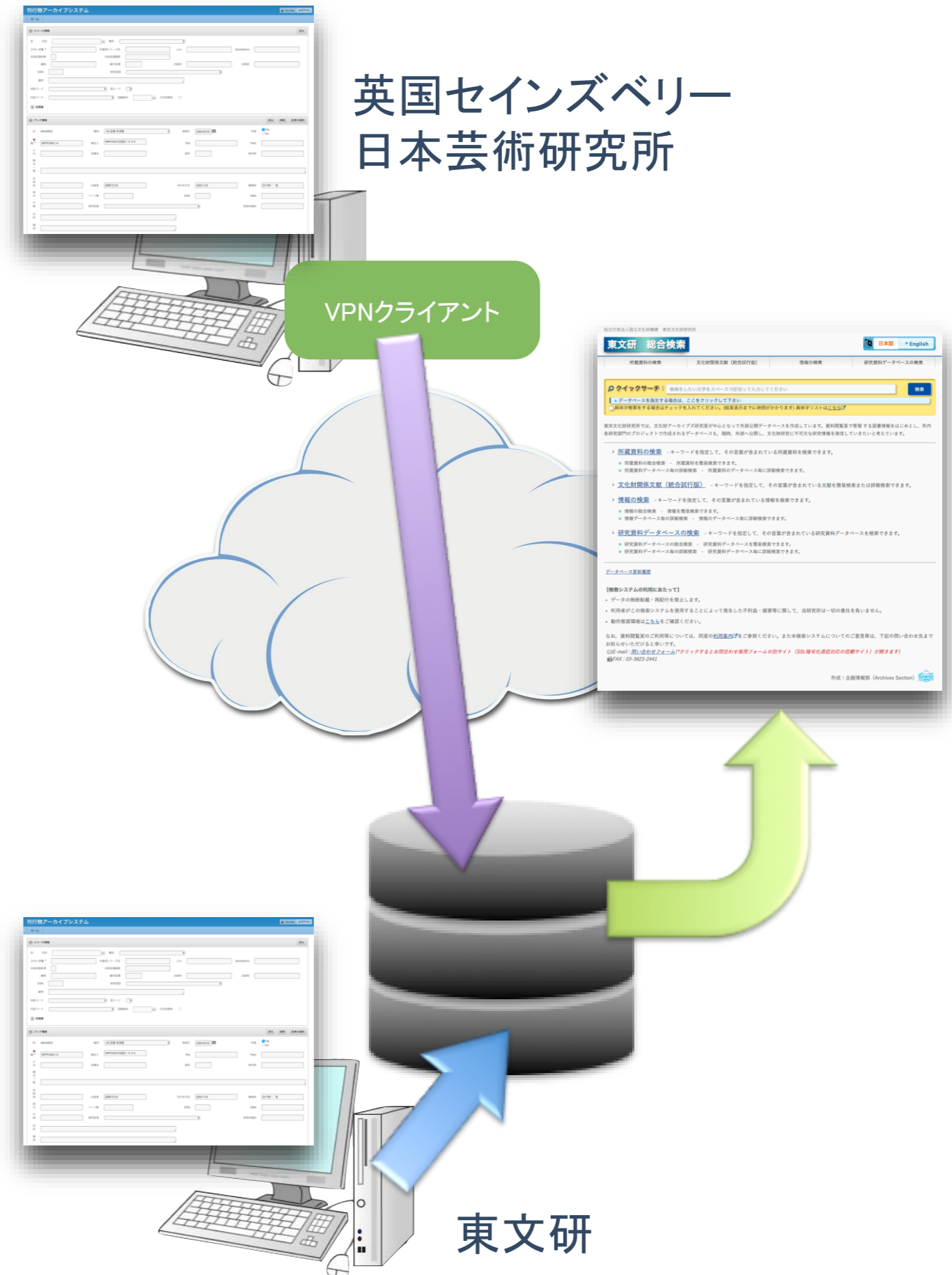
独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 福永八朗

1. 共同事業における海外とのVPN接続

東京文化財研究所の所内VPN環境を利用した事例

英国セインズベリー 日本芸術研究所との共同 事業

- “日本芸術研究の基盤形成事業”
- 英国からVPNで東文研に接続し、英語で出版されている文献及び記事を東文研のアーカイブデータベースに入力
- 東文研が公開しているアーカイブデータベース総合検索Webページを使い、共同事業の成果を公開

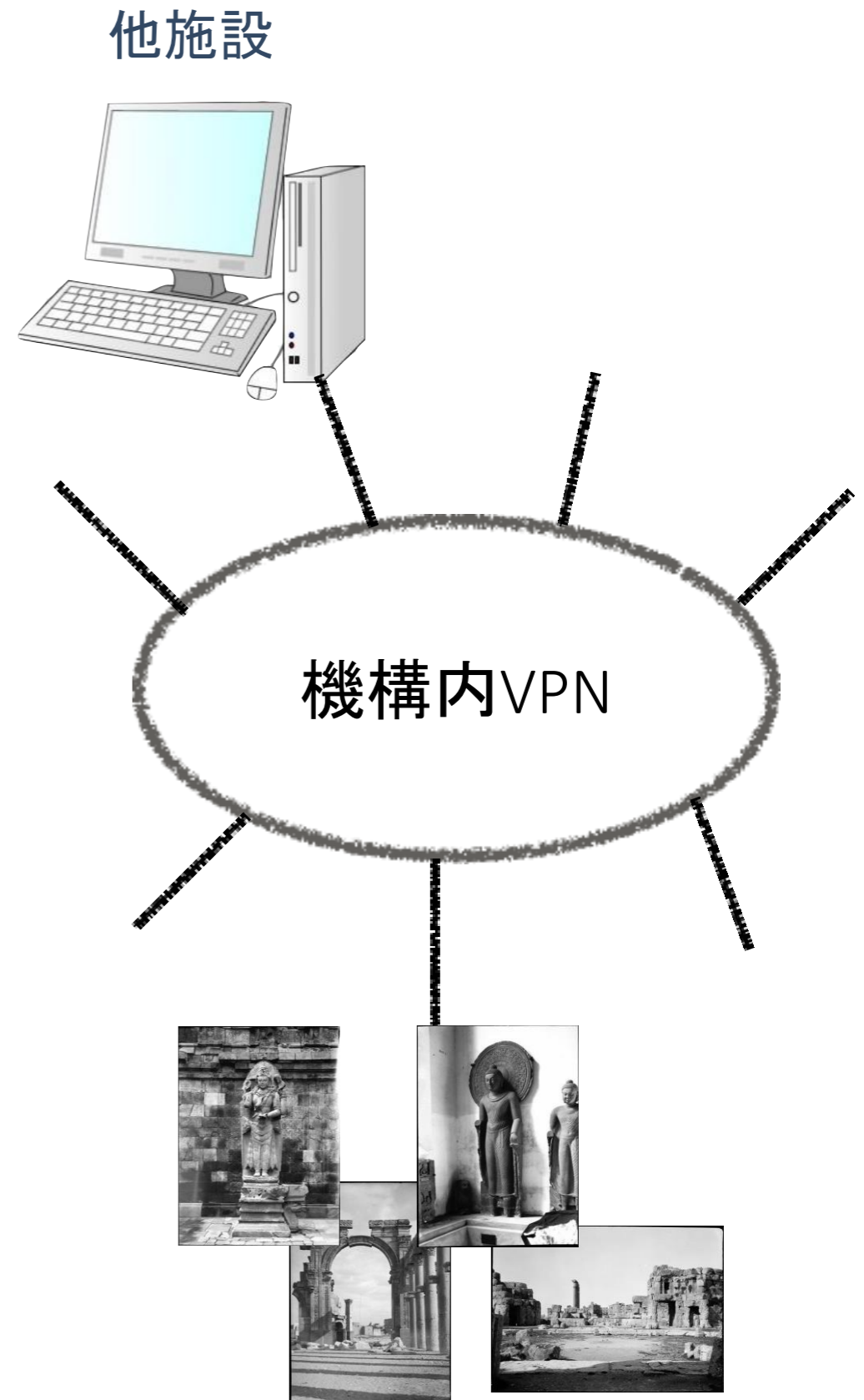


2. 他施設との共同研究成果の共有

国立文化財機構内VPN環境を利用した事例

共同研究の成果である画像の共同利用

- 共同研究の成果である画像は、主に東文研の技術者が撮影しているため、画像の多くが東文研に保管されている
- 共同研究相手先の機構内他施設でも画像を利用できるようにするため、機構内VPNを使ってファイルサーバを接続



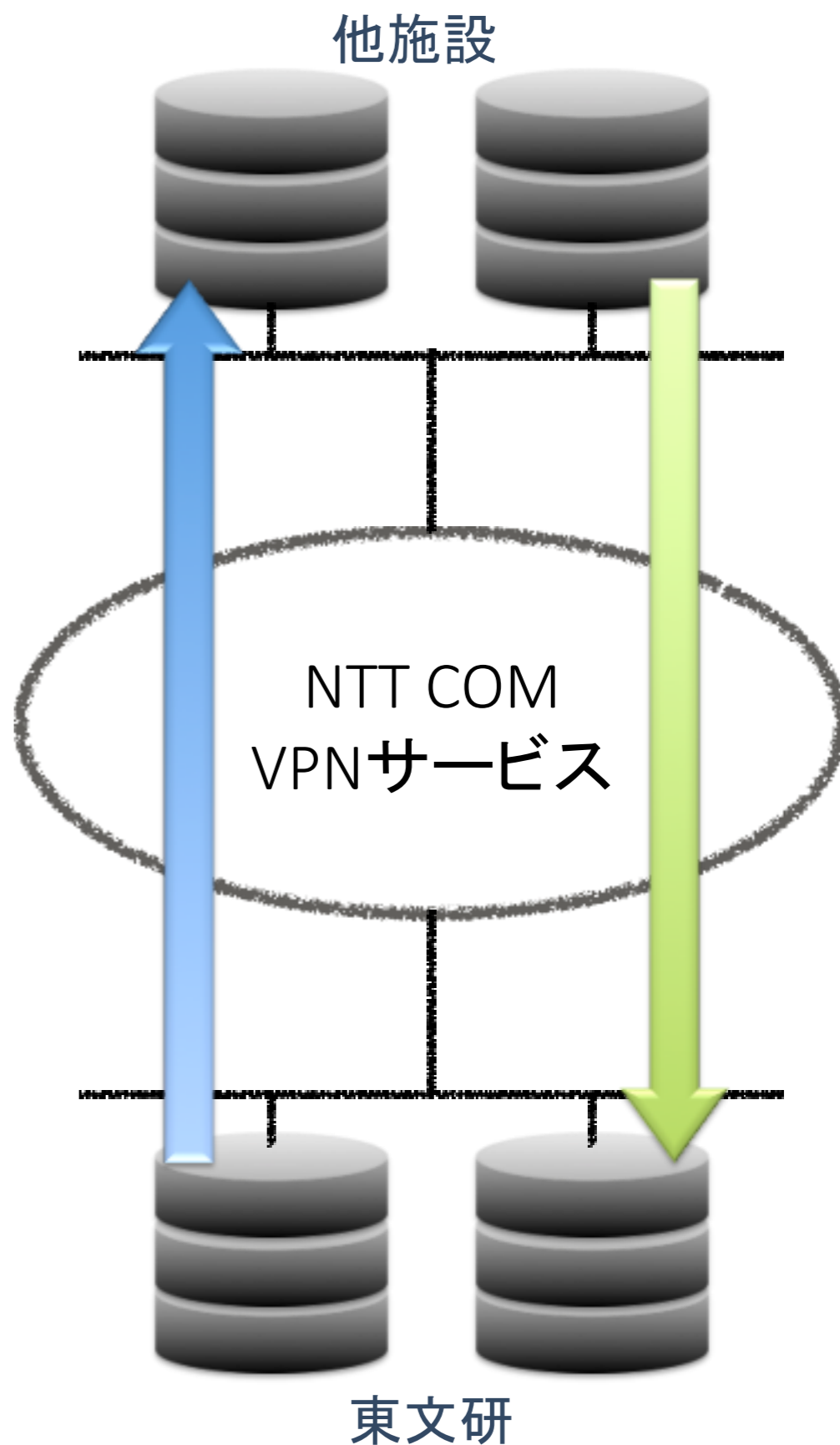
東文研の画像ファイルサーバ

3.他施設とのバックアップ用の接続

施設間をバックアップ専用の回線で接続している事例

バックアップサーバーの持ち合い

- 他施設と1対1でVPN接続を行い両機関でバックアップサーバーの持ち合いを実施
- 機構内VPNのトポロジーがスター型で、施設間の個別通信が制限されていたため、独自に回線を用意



まとめ

- 国立文化財機構は福岡、京都、奈良と施設が分散しているので、今後も広域ネットワークの活用が必要
- 分散している各施設間での画像などのデータ共有やバックアップなどのために、機構内データセンターやクラウド利用の検討が必要
- 東文研では研究成果の公開として、テキストだけでなく高解像度の画像が増え、今後は映像なども追加される
- WANとのアクセス回線を増強する必要があるが、ランニングコストの問題がある